

消化器・肝臓センター

NEW - す NO. 47

2019.5

単孔式腹腔鏡下手術って知ってますか？

今本治彦院長就任後、昨年10月に低侵襲外科手術センターが開設され、市立貝塚病院ではより一層の腹腔鏡下手術に特化した治療の確立へ向けた試みがなされています。腹腔鏡下手術は開腹手術に比べ創が小さく術後の疼痛が軽減されるため早期の社旗復帰が可能となります。また体に残る創部が小さいことは美容上も大きなメリットになります。中でも手術創が1つだけの単孔式腹腔鏡下手術は、創部がより目立たなくなり整容性に優れます。

腹腔鏡下胆嚢摘出術
(通常型：4ポート) 創部



単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術
創部



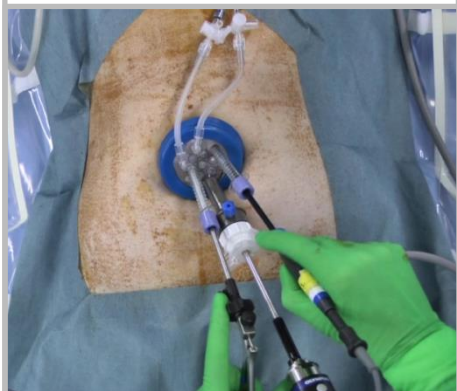
単孔式腹腔鏡下手術の対象疾患

単孔式腹腔鏡下手術は現時点では以下の疾患に限定して実施しています。

- 胆石症
- 胆嚢ポリープ
- 虫垂炎
- 肝嚢胞
- 消化管良性腫瘍、GIST
- 癒着性腸閉塞

通常の腹腔鏡下手術でも創は小さいですが複数個（腹腔鏡下胆嚢摘出術では通常4個）できてしまいます。単孔式腹腔鏡下手術の場合は、臍部にだけ創部がありほとんど目立たなくなります。

単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術
術中写真



Q/A： 単孔式腹腔鏡下手術って安全ですか？

通常の腹腔鏡下手術に比較して術者の鉗子操作の制限があり難易度は上がりますが、手術時間の違いは20-30分程度です。安全性が確保できない場合は単孔式手術から通常型、さらには開腹手術へと移行しますので安全性は問題ありません。当院では2013年から胆石症、虫垂炎など良性疾患に単孔式腹腔鏡下手術を導入しており150例以上の治療実績があります。単孔式手術に対してご興味がありましたらお気軽にお問合せください。

外科 主任部長 金 鏞国

市立貝塚病院

TEL：072-422-5865

